



令和4年度 島根県立隠岐島前高等学校 普通科改革支援事業成果発表

令和5年度の状況報告もふくめ

島根県教育庁学校企画課県立学校改革推進室 馬庭 康輔

隠岐島前高校とは

1学年2学級80人定員、1～3年で164人（県外生95人）。
普通科と地域共創科をくくり募集。（R5年5月1日現在）

教職員数42名（事務、業務アシスタント含む）。
魅力化スタッフ常駐4名。（R5年5月1日現在）

隠岐島前とは

海士町（人口約2400人）、知夫村（人口約650人）、
西ノ島町（人口約2600人）の3島（各町のHPより）
本土からフェリーで2時間～3時間半くらい



【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））

設置の目的

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像である「グローバル人材」の育成に向けて、これまでよりもさらにグローバルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備するため。

特色・魅力ある教育

「島まるごと学校」をコンセプトに約15年間地域をフィールドに海外の視点も入れながら、地域課題解決型・価値創造型の探究学習を推進し、地域内だけでなく、全国・海外から集まる生徒の多様な興味関心や価値観で切磋琢磨しながら学ぶ土壤がある。



令和4年度の目標・取り組み状況

- 4月 コーディネーター設置
学校経営推進会議・新学科設置準備チーム始動
- 5月 第1回推進協議会
- 6月 地域内中学校への新学科を含む高校説明会
- 7月 第2回推進協議会
第1回・第2回オープンスクール
第1回運営指導(共創)委員会
- 10月 第3回オープンスクール
第1回魅力化の会(コンソーシアム理事会)
- 11月 第3回推進協議会
- 1月 第4回推進協議会
第2回魅力化の会(コンソーシアム理事会)
- 3月 第5回推進協議会
第3回魅力化の会(コンソーシアム理事会)
第2回運営指導(共創)委員会

日	内容	担当	備考(共有)担当
1	入学生説明会	新学科設置部	
2	入学生説明会	新学科設置部	
3	入学生説明会	新学科設置部	
4	入学生説明会	新学科設置部	
5	入学生説明会	新学科設置部	
6	入学生説明会	新学科設置部	
7	入学生説明会	新学科設置部	
8	入学生説明会	新学科設置部	
9	入学生説明会	新学科設置部	
10	入学生説明会	新学科設置部	
11	入学生説明会	新学科設置部	
12	入学生説明会	新学科設置部	
1	入学生説明会	新学科設置部	
2	入学生説明会	新学科設置部	
3	入学生説明会	新学科設置部	
4	入学生説明会	新学科設置部	
5	入学生説明会	新学科設置部	
6	入学生説明会	新学科設置部	
7	入学生説明会	新学科設置部	
8	入学生説明会	新学科設置部	
9	入学生説明会	新学科設置部	
10	入学生説明会	新学科設置部	
11	入学生説明会	新学科設置部	
12	入学生説明会	新学科設置部	

年間の学科説明計画

関係機関との連携・協働体制の構築



学校経営会議
(本事業を学校経営に位置付ける)



新学科設置準備チーム
(教員・コーディネーター)



推進協議会(学校運営協議会)
(進捗について地域の方とも共有)



運営「共創」委員会
(外部有識者とカリキュラム共創)

成果と課題

【成果】学科の対象となる1年生の夢探究(総合的な探究の時間)の改訂と実践を行なった。また、右図のように、新学科2年間のカリキュラムを策定した。

【課題】今年度行った1年夢探究や学科説明の改善が必要。また、地域内外へのPRも、実際に来年度生徒の活動事例を踏まえて、PR内容も改善していく。

学年	科目	単元	時間	備考
1年	総合的な探究の時間	夢探究	10	
		夢探究	10	
2年	総合的な探究の時間	夢探究	10	
		夢探究	10	

2年間のカリキュラム

1 取り組みの概要

(1) 目的

- i) 「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」
の開発
- ii) より共創的な運営体制

他の離島・中山間地域の学校のロールモデル

都市部から地方部への人材還流

1 取り組みの概要

(2) 背景

- i) 隠岐島前高校のこれまでの教育活動の蓄積

- ii) 地元地域から県外生まで、
多様な生徒たちに対し、よりきめ細かな対応
もっと探究をしたい！！ ⇔ 国数英などにも時間が欲しい

新たなカリキュラムを開発する必要性

新たな普通科の必要性

1 取り組みの概要

(3) 運営指導（共創）委員会の体制

所属	氏名	主な実績
学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院	藤井 千春 (運営指導委員長)	申請校での「スーパーグローバルハイスクール事業」および「地域との協働による高校教育改革推進事業」における運営指導委員長
一般社団法人21世紀学び研究所	熊平 美香	『リフレクション 自分とチームの成長を加速させる内省の技術』著者
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	喜多下 悠貴	島根県全体で導入している「高校魅力化評価システム」開発者
国立大学法人島根大学 教育学研究科	松尾 奈美	研究テーマ「探究学習を教科学力につなげる深い学びの実現」
海士町立海士中学校	道川 一史	第4回NITS大賞優秀賞「学びがつくる三方よし～社会に開かれた総合的な学習の時間～」

1 取り組みの概要

(4) 配置するコーディネーター

所 属	氏 名
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	大野 佳祐 (おおの けいすけ)
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	BERZENY GISELE (バーズニー ジゼル)

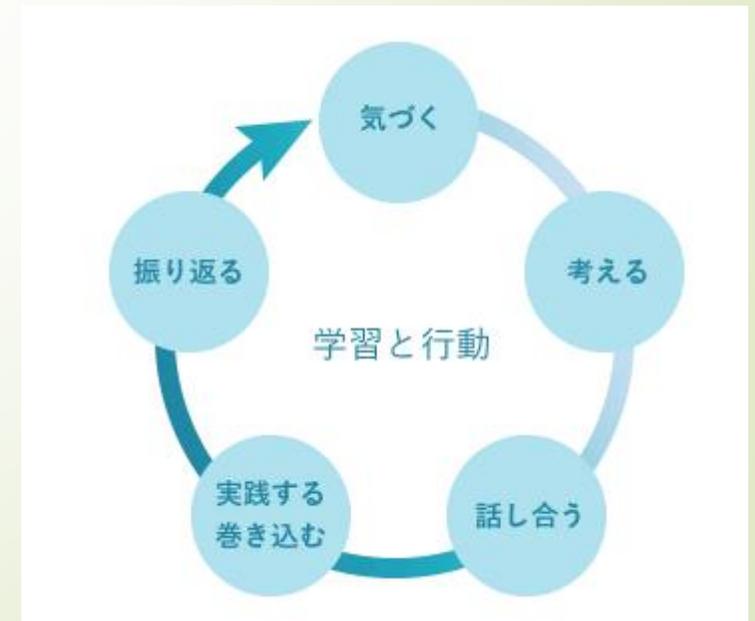
2 R4年度の成果と課題

(1) カリキュラム開発

- i) 新学科カリキュラム準備委員会による
地域共創科のカリキュラム策定

(2) 「失敗を共に称え合う学校」の推進

- i) 失敗共創プロジェクト
10月13日「失敗の日」
- ii) 振り返りプロジェクト
- iii) 授業魅力化プロジェクト



2 R4年度の成果と課題

(3) 新たな「総合的な探究の時間」

- i) 普通科的な探究
(教科の知識をベースに探究実践につなげる)
- ii) 地域共創科的な探究
(探究実践をベースに教科の知識につなげる)

(4) 探究学習の評価

- i) ルーブリックの策定

R5年度より評価スタート。一人一人の成長して欲しい資質能力を共有し評価している。今後、活動の進捗や内容の違いが出てきたときに評価の妥当性をどう担保するのが課題

2 R4年度の成果と課題

- (5) 生徒および教職員含む大人へのアンケート調査
i) 令和4年度の目標設定値と達成状況

指標	目標	達成状況
卒業後のグローバルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合）	15%	16.4%（9名）
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）	80人	140人 （175%）
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上	74%	主体性:69.0% 協働性:76.4% 探究性:73.0% 社会性:69.1%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	78%	主体性:79.3% 協働性:78.0% 探究性:74.0% 社会性:76.3%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上	87%	主体性:89.6% 協働性:93.4% 探究性:89.3% 社会性:91.9%
学び共創フォーラムへの参加者数	50人	127人

2 R4年度の成果と課題

(5) 生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用

ii) 1回目調査結果の概略

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての 活動指標	③生徒の自己認識	R2年度	64.6 %	78.0 %	63.1 %	69.0 %
		R3年度	69.2 %	79.6 %	65.5 %	73.7 %
		R4年度	69.0 %	76.4 %	73.0 %	69.1 %
	① 行動実績	R2年度	76.4 %	75.0 %	67.5 %	69.2 %
		R3年度	78.8 %	79.9 %	69.8 %	70.7 %
		R4年度	79.3 %	78.0 %	74.0 %	76.3 %

生徒の自己認識…「主体性」と「社会性」では目標に及ばなかった。
「探究性」については数値が大きく伸びた

生徒の行動実績…目標に及ばなかったが、「探究性」については数値が大きく伸びた

2 R4年度の成果と課題

(5) 生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

iii) グローカル志向の指標

実用英語検定合格者数推移

	令和4年度				令和3年度				令和2年度				令和元年度			
	1回	2回	3回	合計												
2級	7	1	2	10	6	1	0	7	2	4	5	11	6		1	7
準2級	6	3	10	19	7	2	5	14	4	4	8	16	1	1	4	6
3級	4		2	6	0	3	0	3	0	1	0	1	0		3	3

技能検定へ挑戦する生徒数及び合格者数が増加しており、グローバル・コミュニケーションへの関心の高まりがうかがえる。

3 R5年度の取組

(1) 地域共創科本格始動

- i) 開科式
- ii) 地域共創DAY（毎週木曜1～6限の実践DAY）
 - 生徒が主体的に1日活動
 - フィールドの広がり、活動の多様性

(2) 新たな課題

- 安否確認
- 交通費
- 評価

現存の仕組みの前提を問い直し、改善点を整理
→仕組みとして普通科改革が進むような汎用性

4 管理機関としての成果と課題

(1) 成果

- i) 地域と連携した探究的な学びの深まり、広がり
 - 隠岐島前高校の学びの深化
 - 隠岐島前高校をロールモデルとした学び県内外へ広がる
 - 県内のコーディネーター育成

(2) 課題

- i) 隠岐島前高校への伴走体制
 - 普通科改革事業への伴走は十分か
 - 隠岐島前高校が必要としている研修や情報が準備できているか

4 管理機関としての成果と課題

(2) 課題

ii) 県内高校の魅力化

- 新たな普通科の設置は現在のところ隠岐島前高校のみ
- コーディネーター人材の育成
 - 市部でのコーディネーターの配置
 - コーディネーターの安定的配置